

第4回 日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ (概要報告)

1 概要

- (1) 開催日：平成28年10月25-26日
- (2) 開催場所：ロシア連邦モスクワ市 ロシア連邦天然資源環境省 会議室
- (3) 主催：日本国外務省, 環境省
- (4) 共催：ロシア天然資源, 環境省

2 開催根拠

本ワークショップ^{※1}は、2009年5月、日露政府間において署名された、オホーツク海を始めとする日露の隣接地域における生態系の保全及び持続可能な利用のための協力の具体的な方向性を示した協力プログラム^{※2}に基づいて開催された。

※1 日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ

2010年4月及び2013年2月、ウラジオストクにて、また、2015年2月ハバロフスクにて開催されたワークショップに続く第4回目のワークショップ。2009年3月及び2011年5月には、札幌においてオホーツク生態系保全・日露協力シンポジウムが開催された。

※2 協力プログラムの正式名称

「日本国及びロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム」

3 参加者

【日本側】石川亘（在ロシア日本国大使館参事官）、神祥吾（同二等書記官）、松清敏生（外務省欧州局ロシア課事務官）、長野和明（環境省自然環境局自然環境計画課専門官）、白岩孝行（北海道大学准教授）、佐藤喜和（酪農学園大学教授）、小林万里（東京農業大学教授）、白木彩子（東京農業大学准教授）、村上隆広（知床博物館学芸員）、（垣内あと、不破理江（通訳））

【ロシア側】スミレヴェーツ（露天然資源・環境省国際協力局次長）、クズネツォヴァ（同主任専門官）、シュチェツ（ロシア科学アカデミー極東支部国際部長）、M. U. バルディン（全地球気候・環境研究所研究員）、ポポヴァ（全地球気候・環境研究所研究員）O. O. トルセンコヴァ（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所主任研究員）、A. N. カチュル（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所科学担当副所長）、A. N. マヒノフ（ロシア科学アカデミー極東支部水・生態学問題研究所科学担当副所長）

4 プログラム

【2016年10月25日（火）】

○開会挨拶

ロシア側 スミレヴェーツ（露天然資源・環境省国際協力局次長）

日本側 石川亘（在ロシア日本国大使館参事官）

○セッション1 気候変動分野における研究

（1）M. U. バルディン（全地球気候・環境研究所研究員）

「極東地域において観測されている気候変動」

（2）O. O. トルセンコヴァ（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所主任研究員）

「日本海における気候変動のモニタリング：露日協力の経験及び展望」

（3）A. N. カチュル（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所科学担当副所長）

「日本国及びロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラムの枠内におけるロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所の研究」

（5）A. N. マヒノフ（ロシア科学アカデミー極東支部水・生態学問題研究所科学担当副所長）

「気候変動がアムール川下流域の生態系に与える影響の評価」

（6）白岩孝行（北海道大学低温科学研究所准教授）

「環オホーツク地域の雪氷圏における気候・環境変動」

【2016年10月26日（水）】

○開会挨拶

ロシア側 スミレヴェーツ（露天然資源・環境省国際協力局次長）

日本側 神祥吾（在ロシア日本国大使館二等書記官）

○セッション1 気候変動が生物多様性に与える影響

（1）E. N. ポポヴァ（全地球気候・環境研究所）

「極東地域における気候変動が農作物の害虫の拡散に与える影響」

（2）チシェンコ（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所研究員）（欠席のためO. O. トルセンコヴァ（ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所主任研究員）が代読発表した）

「アムール川の流量がオホーツク海及び日本海の隣接水域の生物の繁殖性に与える影響」

（3）佐藤喜和（酪農学園大学農食環境学群環境共生学類教授）

「日露隣接地域における環境変動がクマ類の生態に与える影響」

（4）小林万里（東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科教授）

「日露隣接地域における環境変動の鰭脚類の生態に与える影響」

(5) 白木彩子 (東京農業大学生物産業学部生物生産学科准教授)

「日露の間渡り希少鳥類の動態と環境変動による影響」

(6) 村上隆広 (斜里町立知床博物館学芸係長：博士)

「知床半島の陸生動物に気候変動が与える影響」

5 成果

- ・日露隣接地域の自然環境研究に関わる日露の研究者の研究成果の共有や意見交換の場が維持されると共に研究者間の新たな出会いの場ともなった。
- ・日露隣接地域の共同研究にあたって障害となる事項については、その解決のために在ロシア日本国大使館とロシア連邦天然資源・環境省が連絡体制を強化することが確認された。
- ・今回のワークショップでの発表内容については、日露双方の研究者が要旨を作成したうえで、日露2か国語に翻訳し公表する。
- ・ロシア天然資源・環境省からは次回ワークショップの開催地は、日本を希望するとの発言があった。